



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)



昨日降った雪がまだ日陰に残っています。居場所入り口の雪景色 (1月25日)

## 「学びサポート」あれこれ

「子どもの居場所」は「報徳今市振興会館」を活動場所として、2004年に始まりました。市教委管理の歴史ある建物でしたが、2013年、取り壊しとなりました。跡地に歴史民俗資料館・二宮尊徳記念館、日光市民活動支援センターが入る新館が建ち、現在の姿となっています。建て替えが決まった2012年秋には『報徳今市振興会館まつり』を企画し、お世話になった会館に別れを惜しまました。(通信30号に記事があります)

さて、「子どもの居場所」がまだ報徳会館にあった頃、保護者の方から、「居場所で過ごしたあと、子どもの学習援助をする時間を取れないだろうか」との相談がありました。居場所はその頃も今と同じ午後4時半に閉じていました。報徳会館の使用を5時過ぎまで延長することは、建物管理や火気の問題のため難しいと思いました。そこで報徳会館の隣にあり、会館の管理も行って「今市市民活動支援センター」に問い合わせたところ、「居場所を閉じたあと、こちらを利用してはいかがですか」との返事をいただき、会場は支援センターのホール、実施日は毎週金曜日、午後6時から9時までという設定で始まったのが「学びサポート」です。

「学び」といっても、「さあ、お勉強です」という雰囲気ではなく、気分が乗らないときは「ではゲームでも」…。支援センターにはテレビゲームの設備はないので、それぞれ持ち寄った、トランプ、花札、すごろく、かるたなどで遊んでいた時期もありました。保護者の方から麻雀セットを預かり、3人の簡単ルールで楽しんだことも。そんな「学び」も数年後には通信制高校に進学したメンバーが学校からのプリント課題を持ってくるようになり、いっしょに答えを考える時間が増えました。高校受験を控えた新たなメンバーが参加することもありました。その時期、参加者に応じた学びを心がけています。

居場所が報徳会館から平ヶ崎に移ってから、「学びサポート」は支援センターを会場に、金曜日の午後7時から9時まで(今は「緊急事態」のため午後6～8時)、数名の中学生が宿題や問題集に取り組んでいます。スタッフは2、3人でそれぞれ

英語、歴史などそれぞれの得意分野で対応しています。

先日はある私立高校の入試問題(数学)が解けずに困りました。正方形をいくつかの線分で区切り、ある条件を与えてできるふたつの三角形の面積比を求める問題でした。補助線を引いて線対象の図形を考えればよいことに1日考えて気付きました。中学校図形の定番問題なのかもしれません。出題者の想定した通り道を見つけ、脇道に外れないよう効率よく通り抜けるのが受験問題のコツといいますが、面白そうな問題にぶつかるとテスト勉強から離れて(時間の制約を考えずに)解き方を探したり、問題をネタにあれこれ考えるのも楽しく、ついそちらのほうに力が入って大脱線となることもあります。



ときには、ミニ実験もやります。写真は理科の教科書にあった「紙コップ電流計」。コイルと直列に豆電球をつないでいるので、紙コップに乗せた針の振れ、電球の明るさの変化、電源装置の示す電圧・電流値を同時にチェックできます。晴れ上がった夜には、センター駐車場や今市小学校の校庭に出て星座を探すこともあります。ほぼ西に位置する男体山に向かい、それから90度右を向いて空を見上げると北極星が光っています。冬、北極星のさらには「おまへのガラスの水車/きつきとまわせ」と宮沢賢治が綴ったカシオペアの「W」が目にとまります。日周運動の水車は時計の針と逆に回るといえば、覚えてくれるかな…。

子育てを支援する他団体とも連携し、支援センターにも協力いただき、「学びサポート」の輪をこの地域に広げていけたらいいなと考えています。(手塚)

## 目次

学びサポート あれこれ	1
ワンボードマイコン@なんにわ	2
居場所利用のお願い	3
活動報告	3
こんな本はいかが・52	4

## 居場所のひとこま

「コロナ禍でウクレレが人気」だそうです。軽くて小さい、音も小さめなので、おうちで気軽に練習できるからでしょうか。はじめに練習する弦楽器として、指の負担が少ないウクレレはおすすめです。みんなで合奏できると楽しいね、ということでスタッフも練習しています。中学生のギターに合わせ、「チェリー」や「ちいさな恋のうた」など、(いまは歌なしで...) レパートリーも増えてます。(N)



## ワンボードマイコン@なんにわ micro:bit によるリモコンカー試作

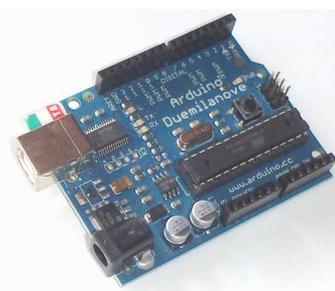
前号で紹介した福田(居場所スタッフ)によるmicro:bitの無線通信機能を生かしたリモコン自動車の試作が進んでいます。車体は居場所にあったLEGOブロックを組み合わせ、micro:bit とモータ制御ボード、電池を搭載。

もう1台の micro:bit で運転する仕組みを考えています。

**T(手塚):** はじめてワンボードマイコンのプログラミングをやってみたのは、2年くらい前でしたね。

**F(福田):** 最初に触れたマイコンは arduino でした。LEDを点滅させたりモータを動かしたりしました。

**【arduino: アルドゥイーノ】**は「安価、シンプル、オープン」を合言葉に2005年、イタリアで開発された小さなPCです。



プログラムはフリーソフトの開発環境「Arduino IDE」で編集。USBを経由して機械語をボードへ転送し実行します。小型コンピュータ黎明期(30年くらい前)、B4版くらいの大きな基板にCPUやメモリ、外部と接続するための回路、そしていくつかの押しボタンやLEDなどが実装

されたものを「マイクロコンピュータ」、略して「マイコン」と呼んでいました。それから10年くらいの間に、ディスプレイやキーボードがセットになった「パソコン」が製品化され、さらに進化を重ねた結果が現在の姿です。10万円でも買えなかった「マイコン」がいまや数千円で手に入る時代になりました。

**T:** ワンボードマイコンのどんなところが面白かったのかな。

**F:** インターネットを調べると、このマイコンを使ったさまざまな工作が見つかり、とくにラジコンのプログラムに興味を持ちました。micro:bit は無線通信機能が付いてるので2台あれば信号をやりとりできます。

**T:** なるほど。リモコンカーに取り組む前に micro:bit でやってみたことを教えてください。

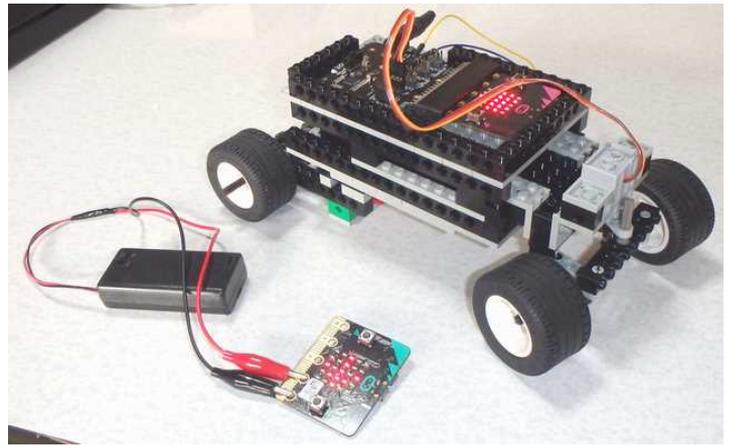
**F:** 居場所にタミヤの「カム・プログラムロボット」のキットがありました。プラスチックの棒に突起をセットすることで動作をプログラムできるおもちゃです。これをラジコン化してみました。また、ネットでLEDアレイと加速度センサーを使った迷路ゲームやピンボールゲームなどを見つけ、これも試してみました。micro:bit は基板上的LEDやセンサーをプログラムで操作でき、とても使いやすいと思います。

**T:** 今回のリモコンカーの部品は。

**F:** まず micro:bit (2台)、直流モータ、電池と電池ケースは居場所にあります。LEGOもたくさんあり、組み合わせてデザインできるのでこれを車体にしようと思いました。直流モータに電源を送る「モータ制御ボード(スイッチサイエンス)」と



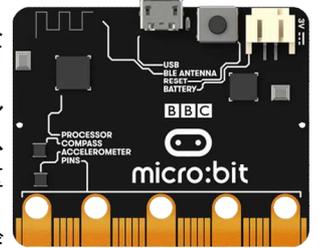
前輪かじ取り用の「サーボモータ」はネットで購入しました。後輪に動力を送るギアの部分はLEGOの部品を探して作りました。(左図)



手前がリモコン・コントローラ用の micro:bit。その奥が micro:bit とモータ制御ボードが載った車体です。電池はボードの下に収納されています。リモコンを傾けると加速度(重力)センサが反応し、前輪のかじ取りができます。前進・後退はボタン操作で... (?)

**【micro:bit マイクロビット】**はBBCが開発したワンボードマイコン。値段は税別2千円くらい。

イギリスでは11~12歳の子ども全員に無償配布されているという。ネット接続できるPCとUSBケーブルがあればOK。無線通信、コンパスにもなる磁気センサー、加速度(重力)センサーが組み込まれている。どれもスマホには付いている機能だが、基板に見える形でチップが配置されているのが印象的。USBケーブルをPCに接続すると、フォルダ(ドライブ)が現れ、フォルダ内のブラウザアイコンをクリックするとプログラム作成の準備が完了する。プログラムを作り [Download] ボタンを押せば機械語ファイルが micro:bit 本体に自動転送され、プログラムが動く。一般のマイクロコンピュータ開発システムと同じ仕組み、しかも最先端の技術を体験できる。



**T:** 車体の組み立てで苦労したのはどんなところでしたか。

**F:** 組み込んだモータの周囲には力がかかるので、緩んだり外れたりしないよう、固定をどうするか考えました。ちょっと使っていると動きがずれてきたりするので、まだ別のアイデアが必要になりそうです。

**T:** プログラムもだいぶ工夫しているようですね。

**F:** コントローラを傾げることで車体のハンドルを操作できるようにしました。同時にコントローラ側のLEDにハンドルを切った方向を示す矢印を表示する機能を付け加えました。コントローラに傾きによって一気にハンドルが右に左に動いてしまうので、傾き具合でハンドルがゆっくり動くようにできないか考えています。

**T:** もう1年以上も前に自動制御でバランスをとる倒立振子を作ったことがあります。2019年の「ワカモノフェスタ」で展示したあと放置状態になっていますが、あらためて勉強しなおしてリモコンカー運転に応用できたらよいですね。

これまで居場所では、何種類かのロボットカーを購入し試してきました。柔軟なデザインが可能なLEGOで骨組みを作り、micro:bit または arduino とモータ制御基板などを組み合わせ、外部センサーも付けてプログラムで制御という、このスタイルがこれからの「なんにわ標準」になりそうです。さらに進展させ、この「ひろば」で報告したいと思います。(福田、手塚)

- 10月26日(月) 通信「なんとなくのひろば・第61号」発行
- 11月 1日(日) 第11回・子ども虐待をなくそう！県民のつどい  
主催：子ども虐待防止ネットワークとちぎ（認定NPO法人 青少年の自立を支える会）
- 11月 7日(土) 講演会・新しい不登校施策と公民連携の推進に向けて（とちぎ教育ネット・オンライン）
- 11月 9日(月) 茶話会（第102回）
- 11月10日(火) 理事会（第98回）
- 11月22日(日) ベリー会 月例会
- 11月28日(土) 子どもの居場所「なんとなくのにわ」を知ろう  
～行政・学校・NPOの協働と取り組み～ 支援センターにて講演
- 12月14日(月) 茶話会（第103回）
- 12月16日(水) NPOマネジメント会議（第1回）（支援センター）に出席
- 12月20日(日) ベリー会 学習会
- 12月28日(月) 子どもの居場所・大掃除  
1月 5日(火) 理事会（第99回）  
1月15日(金) 2021・22年度 日光市入札参加資格審査申請書提出



昨年、居場所から見える枝に巣箱を置きました。窓の近くで警戒されたのか巣作りしてもらえず残念。写真は別の木の幹に付けた同じタイプの巣箱です。秋に開いてみたら、枯苔と獣毛で、ふんわりしたベッドができていました。取り付け位置を考えまた再挑戦します。

## さくらそう関連の勉強会など

[2020年度・日光市相談支援専門員連絡会]

- 11月25日(水) 就労・生活支援センター（フィールド）の支援について
- 12月23日(水) 訪問薬剤管理指導サービスについて

[2020年度・日光市障害者自立支援協議会]

- 12月10日(木) 第6回 事例検討会議
- 12月25日(金) 合同会議「発達障害児支援・家族支援」（とちぎ・ふじ発達研究所 佐藤俊夫氏）

## 発達障害の基本的な特性の理解と 発達段階に合わせた子ども・家族支援

とちぎ・ふじ発達研究所 佐藤俊夫氏の講義を受けて

令和2年12月25日(金) 14:00~16:00

日光市役所本庁舎1階 市民ホールにて開催

参加者：日光市障がい者自立支援協議会の相談支援実務者会議  
および 障がい児支援実務者会議のメンバー

研究所で実際にお子さんと保護者の方と接していらっしゃる講師のお話は、とてもリアルで実践的と感じました。子どもそれぞれに違いがあり、保護者といくつかの方法をやってみて結果を確かめていくという支援の方法や日本ではみんなと同じと言う国民性のため、本人がストレスを受けて潰されてしまうというお話には納得がいきました。

具体的な支援では「たまに良い面接や訓練というより、日々の生活」、問題行動に対しては「ダメなことはダメと事務的に接する」、情緒が不安定な場合は専門医の受診・服薬・リハビリ・心理ケアの検討も必要とのことで支援の連携が大切だという話もありました。本人のことをよく知る母親の動物的なカンでいろいろ選択していくほうが良いという一方、一生懸命になりすぎると、後で子どもにコントロールされる場合がある…等、自分の子育てや仕事の体験の中でも心に刺さる言葉がたくさんありました。

言葉の発達というよりも自ら遊ぶ力、つまり、こうするとどうなるかなという好奇心がしっかりしていれば将来は安心という説明にホッとしました。なぜなら、今担当しているお子さん達は、同学年とは感じ方や行動が少し違うかもしれないけど、探究心や好奇心をたくさん持っているお子さんばかりだからです。これからの成長がもっと楽しみになりました。講師の書かれた『どの子ども必ず伸びる～発達障害・知的障害から重い障害まで～』を読み、またお伝えしたいと思います。（西尾）

## 居場所利用のお願い



新型コロナウイルス感染の広がりについて、安心できない状況が続いています。

感染症の終息迄まで、以下の点にご注意いただき、健康に配慮した居場所利用をお願いします。

- (1) 12時30分～16時30分まで居場所を開所します。
- (2) 来所前は体温測定および手洗いを行ってください。
- (3) 風邪の症状または発熱がみられるときは来所を見合わせていただくようお願いいたします。
- (4) マスクの持参と着用をお願いします。

「なんとなくのにわ」への相談は、いままでどおり受け付けています。電話またはメールでご連絡ください。

いま、栃木県は「非常事態宣言」の中にあり、集団感染や「クラスター発生」が毎日のように報道されています。新型コロナは「無症状の感染者が他の人に感染させる場合がある」という特性を持つことがわかってきました。「私は感染しているかもしれない、気付かないうちに周囲に感染を広げるかもしれない」と自覚して行動することが感染を抑えるために有効です。

人との接触を避けることが感染を避ける手段として重要です。そして、

- ▼ 密な空間を避ける(互いに手の届かない位置で)
- ▼ 大声での会話、同室での食事をしない
- ▼ マスクをきちんと付ける

を守りましょう。居場所では空気清浄機を使い、時々窓を開け、空気の入替えを行っています。みんなで協力して、感染拡大を抑えましょう！

特定非営利活動法人 なんとなくのにな通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378

電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



## こんな本はいかが？

### その 52 中村哲 医師についての本

今回は、2019年12月にアフガニスタンで亡くなった  
中村哲医師について描かれた絵本などを紹介します。

#### ◎「カカ・ムラド — ナカムラのおじさん」

原作／ガフワラ 訳・文／さだまさし、他 2020年 双葉社

この絵本には、「カカ・ムラド—ナカムラのおじさん」と「カカ・ムラドと魔法の小箱」の2冊のお話が収められています。

お正月のニュース番組の中で、歌手のさだまさしさんがこの絵本の一部を朗読したり、中村先生に捧げる歌を歌ったりしていました。さださんは中村先生には会ったことはないけれど、先生の「一隅を照らす生き方」にとっても感動して、先生に捧げる歌を作ったと語っていました。

#### ◎「人は愛するに足り、真心は信ずるに足る」

著者／中村哲（聞き手）澤地久枝 2010年 岩波書店

この本は、ノンフィクション作家の澤地久枝さんが聞き手となり、中村医師のアフガニスタンでの活動を語ったものがまとめられている本です。中村医師の「若い人への励ましのメッセージ」が込められています。

中村さんは、「一隅を照らす」という言葉が好きだったと言います。一人一人が自分の暮らす場所で誠意を尽くして生きていくことが、社会全体を良くしていくことにつながるのですね。

私も自分のやれることをやり、社会に少し役立ちたいと考えています。  
(白井)

## 子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所（日光市平ヶ崎）

日時：毎月第2月曜日（午前10時～12時）

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300円（お茶代）

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。

(Tel: 090-3227-7079)

## 私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

## 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

## 会員について

正会員：52  
賛助会員：15  
団体会員：4  
入会金なし

年会費（一口）  
正会員 3,000円

賛助会員  
個人 5,000円  
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員継続、応援をよろしくお願いします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。みなさまの積極的な参加をお待ちしています。

## なんとなくのへや

岩波文庫創刊90周年記念の「図書」増刊号(2017年)。「私の3冊」と題して各界の著名人がおすすめの岩波文庫を紹介している薄い宣伝誌です。手元にとっておくのは、時折読むと発見があるから。昨年春、コロナ感染の広がりを心配しつつ取り出してページ

をめくっていたら、映画プロデューサー・鈴木敏夫さんによる『忘れられた日本人』の紹介が目につきました■「え、読んでいないのですか」と高畑勲と宮崎駿に馬鹿にされ、後にふたりの作品の元がここにあることを知ったという短いコメント。ジブリの鈴木さんのおすすめ本だったのかと知りました■伝承者としての古者が若いころを語った聞き書きの記録が収められ、「民俗学の方法を変えた」と言われる本です。今から一世紀半も前の村の寄り合い。集まると徹底的に話し合いを続け、何日もかけて物事を決める。そういえば「ナウシカ」で描かれた「風の谷」に住む人々、「ぼんぼこ狸」の集まり、「千と千尋」にもそんな場面があったような■病原菌やウィルスなど誰も知らなかった時代。山に住む動物に対しても人間と同じような気持ちで向き合っていた暮らしがあり、私たちがいま信じている価値観とはべつの論理を持つ無文字社会の生活者がいたこの島国。日本列島に住んでいた人たちの姿を想像しながら、ジブリアニメに作者が込めたメッセージを、ビデオを見て探してみるのも面白いのではと思います。(T)